

ビキニ水爆被災事件から50年

今年には「第五福竜丸のビキニ水爆被災事件」から五〇年目にあたります。この機会にあらためて原水爆のおそろしさを考えたいと思います。

第一次大戦後、米ソによる核兵器の開発競争がはじまり、広島・長崎に投下された原爆より千倍以上の破壊力をもつ水爆の開発がおこなわれました。

第五福竜丸

第五福竜丸は、カツオ漁船として一九四七年四月に和歌山県古座町で建造されました。一九五三年に静岡

県でマグロ漁船に改造され第五福竜丸と命名され、以来、焼津港を母港としました。

一九五四年三月一日の未明、水爆被災

一九五四年一月二日に第五福竜丸は遠洋出漁のため焼津港を出航。マグロはえなわ漁を行いながら、三月一日太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁東方海上二六〇kmに達しました。この位置は水爆実験のため米国が設定していた「危険区域」外でした。当日の未明、午前二時四

五分、乗組員は突如西の空が明るく輝き、水平線から上る大きな火のかたまりを目撃しました。その数分後に大爆発音かどろき、二〜四時間たつと空全体をおおった雲から白い灰のようおったものが雪のように降りそそぎました。異常を感じた第五福竜丸乗組員は操業を打ち切り焼津にむかいました。白い灰が付着したところはやけどをしたようになり、乗組員は頭痛、吐きけ、目の痛みを訴え、髪の毛を引く張ると根元から抜けるなど、全員が急性放射線症状になりました。白い灰の本体は水爆でまきあげられ

米国の水爆実験とその被害

米国は一九四六年、五八年、マーシャル諸島北部のビキニ環礁、エニウエクト環礁で計67回の原水爆実験を実施。その最大級の核実験が第五福竜丸が被災した「ブラボー実験」でした。これにより、

一九五四年だけでも第五福竜丸はじめ八百五十六隻が被災、漁民生活や水産業界に大きな被害を与えました。マーシャル諸島では、島民千八百六十人が白血病やがんなどの健康障害を負ったと認定され、このうち約八百四十人がすでに死亡しています。

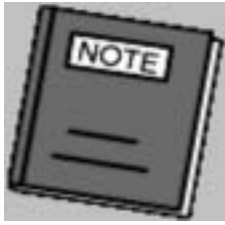
たサンゴのかけらで、これに核分裂生成物が付着した放射性降下物でした。

船は二月四日、焼津港に帰港。荷揚げされたマグロは、翌日に東京、大阪等の市場に出荷されました。これが放射能で汚染したマグロであることがわかり、「原爆マグロ」騒動がおこりました。この事件は読売新聞の三月一六日付朝刊に「邦人漁夫、ビキニ原爆実験に遭遇」の目出しでスクープされ、瞬く間に日本はもとより世界的なニュースとなりました。五四年二月未までの集計によると、放射能で汚染した日本の漁船は合計で八五六隻、廃棄さ

れたマグロは四五六トンにもなりました。第五福竜丸の二三人の乗組員のうち、無線長だった久保山愛吉さんが犠牲になりました。久保山さんが残した「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉は有名なです。第五福竜丸のビキニ被爆をきっかけに、原水爆禁止運動は巨大なつねりとなり、全国に広がりました。第五福竜丸は現在、東京・夢の島公園の「都立第五福竜丸展示館」に保存されており、ボランティアの人たちによる懇切でいねいな解説が人気を呼んでいるそうです。入場無料。

(つづく)

続 僕の講義ノート



大阪府立大学先端科学研究所

森 利明

(もりとしあき)

